

都内の桜が満開になったのを見計らって、花見がてらの旅と洒落こみましょう。喜平橋を出発すると、間もなくして小平市から小金井市に入ります。小金井橋を中心とした両岸6キロには江戸時代から桜が植樹されており、多くの文人墨客が題材に用いたのも頷けます。桜の名所として名高い小金井公園へも立ち寄ってみましょう。

続く武蔵野市では、境水衛所跡で千川上水への分岐を見届け、境浄水所付近で独活の碑、国木田独歩文学碑を視て、昔日の武蔵野の風景を思い起こすのも一興です。岸边を注意深く観ると、分水跡を見つけることが有ります。三鷹駅前以北村西望の手による平和像を眺めたら、地下道を通り、三鷹駅南口で太宰治の足跡を辿る事に時間を割くのも楽しみです。山本有三記念館、井の頭公園、三鷹の森ジブリ美術館など、興味のある場所は数多いです。

牟礼橋で人見街道を横切ると、ここからは杉並区です。岸边には金田一博士が、娘の冥福と水難者の供養を願い建立した水難者慰霊碑。眼前に、首都高4号線が視えてくると、浅間橋跡、羽村の堤からおよそ31キロで、ここまでが史跡指定されています。

首都高を右に見ながらしばらく進むと、上北沢駅入り口交差点で、玉川上水第2公園に至ります。ここからまた、玉川上水の跡を辿れるのですが、この続きはまたいつか再開するかもしれません。

ブログに本文掲載 <http://blogs.yahoo.co.jp/hitofumi300/14077455.html>



#### 玉川上水を辿る④ 2016,08,17

リオオリンピックでは連日熱戦が繰り広げられ、少々寝不足です。猛暑に迫る中環状8号路を南下していると、ツーリングを取り止めたい気持ちも沸いてきますが、ここは辛抱です。上北沢駅入り口から始まる玉川上水第二公園は暗渠化されており、しばらくは緑道の脇を進みます。時折見掛ける橋の遺構に名残を視ます。

井の頭通りを越え、甲州街道に沿って進むと、代田橋駅付近から流路の残る自然散策路となります。ここから幡ヶ谷までは、世田谷区と渋谷区内を縫う様に進み、また暗渠と流路も交互に現れます。窪地を避けて、大きく蛇行しているのも、この辺りの特徴です。

幡ヶ谷では、消防学校から訓練に伴う掛け声が響き渡ります。新宿駅に至るまでは、左手に甲州街道と首都高速4号線を視ながらのんびり進みますが、ビル街の照り返しが暑くて堪りません。煉瓦造りの玉川上水モニュメントを潜ったら、まもなく跨線橋で新宿駅を越えます。バスタ新宿を見学してみるのも一興でしょう。

新宿御苑の玉川上水・内藤新宿分水散歩道を辿りしばし木陰で涼を得たら、四谷大木戸跡に赴き、羽村から始まった玉川上水を辿る歴史旅は、様々な方に感謝しつつ、ここで幕となるのでした。

ブログに本文掲載 <http://blogs.yahoo.co.jp/hitofumi300/14340614.html>



レポーター: ひばりが丘駅前 そば処 柳屋店主 伊藤秀継

a.b.c.cup in 幕張海浜公園Vol.74 ひなまつりスペシャル 平成29年2月26日

日本マウンテンバイク協会が行っているレースが自宅からとても近い所なので、小1の孫と1時間耐久レースに出してきました。レースに出るのは確か30年ぶりぐらいだと思います。交代で走る気安さと普段から走りなれているコースなので安心でした。レースが始まり、私の番になり走り始めると、ギアチェンジがうまくいきません。歯飛びを繰り返し 思うところに落ち着きません。後ろからくる子供選手にバンバン追い抜かれ(´д`)トホホ 心拍数が上昇し 何やら乳酸値も上昇してくる気配 3周して交代 草地に倒れこんで 孫娘にマッサージをお願いすると ハイハイといいお返事 でも背中に回る不審な動き ム～肩をトントン… そこじゃないのに～ 1時間は長かった 次までに 勉強しなおしてきます  
レポーター:ただの爺さん



行田公園自転車スクール開催 平成29年3月25日

千葉県自転車競技連盟の後援をいただき、子供対象の自転車スクールを開催いたしました。子供が自転車に乗っている時に発生する交通事故の原因の多くは「子供自身に由来する」事はあまり知られておりません。自転車に乗ることはとても楽しい遊びであり、日常的に必要な交通手段です。とても身近な道具なだけに、その操り方を習おうという意識がなかなか生まれてこないのが現状です。基本的なトレーニングを受けないままに育ち、途中からロードレーサーやMTBに乗っても 子供の頃から当たり前のように地元の自転車スクールで基本を叩き込まれてきた欧米の選手達に太刀打ち出来ないのは当たり前の結果です。ピーター・サガンが子供の時からMBXを乗りこなしていたからこそ、抜群のバランス感覚の持ち主であることは有名な話です。

今回 千葉県立行田公園を無料で借りることが出来ました。東京車連 中山氏の協力のもと、天候にも恵まれて楽しい第1回目のスクールとなりました。

レポーター:小林 昭

